

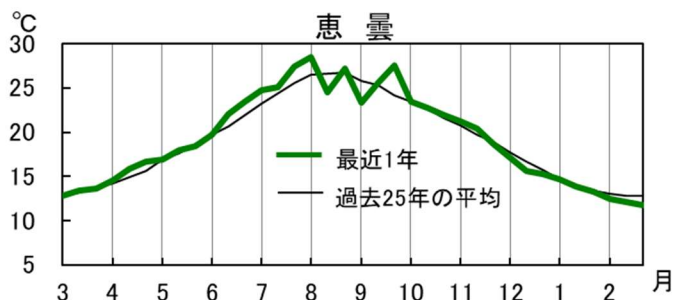
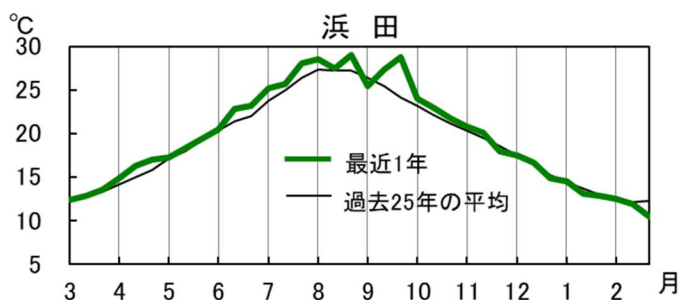


(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《2月の海況》



| 2月 | 浜田 | | | 恵曇 | | |
|----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 評価 | 平均 | 平年差 | 評価 | 平均 | 平年差 |
| 上旬 | 平年並み | 11.7℃ | -0.6℃ | やや低め | 12.1℃ | -0.8℃ |
| 中旬 | 平年並み | | | やや低め | | |
| 下旬 | はなはだ低め | | | かなり低め | | |



《2月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田地区では2月の水揚げはありませんでした。隠岐地区ではマイワシ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は93.2トンで平年を上回りました。魚種別の漁獲量の動向は、マイワシは2,586トンで平年の1.8倍、サバ類は1,090トンで平年の7割でした。

【イカ釣漁業】

浜田地区(属地5トン以上)ではヤリイカがわずかに漁獲されましたが、2月の操業船が1隻のみであったため、漁獲量は非公開とします。西郷地区(属人5トン以上)での漁獲はありませんでした。

【沖合底びき網漁業】

浜田地区ではカワハギ類(ウマヅラハギ)、マフグ、アナゴ・ハモ類を主体に、1統1航海当りの漁獲量は22.4トンで平年を上回りました。魚種別の漁獲量の動向は、カワハギ類(ウマヅラハギ)は平年の49倍、マフグは平年の5割、アナゴ・ハモ類は平年の1.4倍でした。その他、マダイは平年の2.2倍、アカムツは平年の1.3倍と好調でしたが、ソウハチは平年の1.0倍、キダイおよびアンコウ類は平年の7割、スルメイカおよびケンサキイカは平年の5割の水揚げでした。

【小型底びき網漁業】

大田地区(和江・久手)ではアカガレイ、ソウハチ、ヒレグロ主体の漁況で、総漁獲量は141トンでした。1統1航海当りの漁獲量は787kgで平年を下回りました。魚種別の漁獲量の動向は、アカガレイは平年の3割、ソウハチは平年の4割、ヒレグロは平年の5割でした。その他、マフグは平年の3.4倍、マダイは平年の2.2倍、アナゴ・ハモ類は平年の1.7倍と好調でしたが、ニギスは平年の7割、アンコウ類は平年の6割、アカムツおよびキダイは平年の5割の水揚げでした。

【定置網漁業】

出雲地区ではブリ、マイワシ、サワラ類主体の漁況で、1経営体当りの漁獲量は31.0トンで平年を上回りました。魚種別の漁獲量の動向は、ブリは平年の2.5倍、マイワシは平年の7割、サワラ類、マアジは平年の6割でした。石見地区ではブリ主体の漁況で、1経営当りの漁獲量は2.9トンで平年並みでした。魚種別の漁獲量の動向はブリが平年の3.4倍でした。隠岐地区ではスルメイカ、マアジ、サバ類主体の漁況で、1経営体当りの漁獲量は10.5トンで平年を下回りました。魚種別の漁獲量の動向は、スルメイカは平年の3割、マアジは平年の1.6倍、サバ類は平年の8割でした。

【釣り・縄】

出雲地区ではサワラ類、ブリ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は34.3kgで平年を下回りました。魚種別の漁獲量の動向は、サワラ類は平年の0.6倍、ブリは平年の0.1倍でした。石見地区ではサワラ類主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は42.2kgで平年を上回りました。魚種別の漁獲量の動向は、サワラ類は平年の2.0倍でした。隠岐地区ではブリ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は50.6kgで平年を上回りました。魚種別の漁獲量の動向は、ブリは平年の1.1倍でした。

【令和7年2月の漁獲統計】

| 漁業種類 | 地区 | 主要魚種 | 総漁獲量 | | | CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量) | | |
|-----------------|----|-------------------------------|---------|-------|-------|---------------------|-------|-------|
| | | | 漁獲量 | 前年比 % | 平年比 % | 漁獲量 | 前年比 % | 平年比 % |
| 中型まき網 | 浜田 | — | — | — | — | — | — | — |
| | 隠岐 | マイワシ、サバ類 | 4,010トン | 71% | 94% | 93.2トン | 102% | 176% |
| イカ釣り (5トン以上) | 浜田 | ヤリイカ | — | — | — | — | — | — |
| | 西郷 | — | — | — | — | — | — | — |
| 沖合 底びき網 | 浜田 | カワハギ類(ウマヅラハギ)、マフグ、 アナゴ・ハモ類 | 492トン | 223% | 191% | 22.4トン | 183% | 151% |
| 小型 底びき網 | 大田 | アカガレイ、ソウハチ、ヒレグロ | 141トン | 65% | 52% | 787 kg | 88% | 74% |
| 定置網 (大型) | 出雲 | ブリ、マイワシ、サワラ類 | 186トン | 85% | 96% | 31.0トン | 127% | 129% |
| | 石見 | ブリ | 5.8トン | 14% | 34% | 2.9トン | 21% | 49% |
| | 隠岐 | スルメイカ、マアジ、サバ類 | 20.9トン | 49% | 49% | 10.5トン | 49% | 49% |
| 釣り・縄 | 出雲 | サワラ類、ブリ | 12.8トン | 43% | 36% | 34.3 kg | 85% | 75% |
| | 石見 | サワラ類 | 22.9トン | 139% | 100% | 42.2 kg | 177% | 138% |
| | 隠岐 | ブリ | 11.8トン | 70% | 65% | 50.6 kg | 166% | 159% |

※ 平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較

※ 大型定置網漁業のCPUEは1経営体当り漁獲量を示す。

※ 水温の評価「はなはだ〇〇」：約20年に1回の出現確率である±2℃程度の高さ

「かなり〇〇」：約10年に1回の出現確率である±1.5℃程度の高さ

「やや〇〇」：約4年に1回の出現確率である±1℃程度の高さ

「平年並み」：約2年に1回の出現確率である±0.5℃程度の高さ